



~ 13
3721
3



門へ13
號3721
卷3

清
可ばら
抄抄
筆
上
の
差

鶴
標
ふ
因
ま
づ
賀
化

辛酉
新板
海
蔵



黄鳥の一叢を不待。梅花より嚮ふ先。稗史を披く看官み視せん
と。既よ初編ハ癸市と未次編の稿不脱下手の沉吟休み似たり。
早卒綴ると錦橋堂の催促。此頃々風邪み感冒。頭痛み症
氣も縛奮。彼は無言承諾。兼かけし壁み馬一足
飛の走書。漸趣向ハ出来。文才の短ゆ不似。鼻の下
の長々と余計な譚の道草み竟話延て菅公ハも其母の
胎内ゆ軀籠玉ハ。作去是愈發端の下添。大團圓迄
未いと遠き支る。何卒御退窟あく。御氣永み御覽の上
震且月氏の浦迄も御評判の程幾重ゆ願を欲張てま

萬延二重光
作重光
歳孟陽新史
鶴亭秀賀戲記





えとねはまき
三位是善卿

松の前産
小松姫

松の前

お木金二



此人物の姓名素生
 第三編の委敷
 分解ペー

修験者
 般善院
 良快の舎弟
 忠快



菅原家奥殿の
 侍女青葉

女賈人
 小間物屋
 於多女



黒竹

松本巻二





みちのへ
みちのへ
みちのへ
みちのへ
みちのへ

田舎の
おんな
おんな
おんな
おんな
おんな

おんな
おんな
おんな
おんな
おんな
おんな



おんな
おんな
おんな
おんな
おんな
おんな

おんな
おんな
おんな
おんな
おんな
おんな

おんな
おんな
おんな
おんな
おんな
おんな



松利金二

國貞画 秀賀作

此は、新編、種清綴、の巻頭、に、大津繪、の、口画、手本、類、歎、品、に、關、する、事、也、と、云、ふ、事、有、り、也、



△此は、新編、種清綴、の巻頭、に、大津繪、の、口画、手本、類、歎、品、に、關、する、事、也、と、云、ふ、事、有、り、也、

口中御藥 固齧散 大包代百銅 小包代三十銅
一、口、中、御、藥、 一、大、包、代、百、銅、 一、小、包、代、三十、銅、
一、一、魚、の、骨、 一、一、と、ち、を、き、し、て、れ、 一、一、う、み、の、
能 〆、用、ひ、や、う、の、う、ち、に、く、お、ま、り、し、

此は、新編、種清綴、の、巻頭、に、大津繪、の、口画、手本、類、歎、品、に、關、する、事、也、と、云、ふ、事、有、り、也、

寝小便大奇藥 一包代三百銅
〆、の、を、と、し、て、一、包、に、入、し、 〆、一、包、に、入、し、 〆、一、包、に、入、し、

無病長壽 養生手引草 全二冊 京山翁著 廣重画	美玉百人一首 中本形 全一冊	紅梅百人一首 半紙本 全一冊	離鶴籠湯壽 紅摺本 京山翁著	女中用文玉手箱 中本形	敵討白石新 全二冊	伊賀越敵討物語 全二冊 芳虎画録	頼三并曾我神垣 三編 種清綴 讀切國貞画	新板端唄大津繪 節度 類歎品	川柳点地口画 手本 類歎品
-------------------------	----------------	----------------	----------------	-------------	-----------	------------------	----------------------	----------------	---------------

